

編集後記：今年一年「天気」をご愛読いただきありがとうございました。今年を振り返ると、例年に増して大雨が多かったように思います。私の住んでいる東京でも9月に江東区で東京都が設置した雨量計で87 mm/1 hを観測する雨が降り記憶に残っています。

このときは夕方の帰宅ラッシュが始まる前から都心では雷雨となり、降水域はゆっくりと東へ移動しました。私は子供を保育園に迎えに行くため、ちょうどこの雷雨の中外を移動する必要がありました。そこで家を出る前にレーダーと降水ナウキャストで雨の状況を確認しましたが、強まることなく移動していく予想で、すでに雷雨は続いているしそろそろ止むだろうと安易に考え出掛けることにしました。ところが、一向にやむ気配はなく、雨はどんどん強くなり保育園に着く頃には道路は完全に冠水し、結局雷雨のなか子供を抱えて帰路につくことになりました。もう少し状況を

見極めてから外出すべきだったと反省しながら帰ってきた次第でした（一方で、傘のなかで子供は「あめすごいいね～」とはしゃいでいました）。

後日調べてみたところ、出掛けた直後の最新の降水ナウキャストではこの降水域の動きや強さは私が外出していた間は予測できており、外にいる場合でも最新の情報を得ることの必要性も痛感しました。このようないざというときに有効な情報を活用するためには、どういった情報がありそれがどのようなものか知っておくことが大切かと思います。「天気」では“気象業務の窓”において、気象に関する新規業務および改善についての情報を掲載していますので、新しい気象技術を知っていただけたらと思います。来年も「天気」が皆様のお役に立てればと思っています。

(小野耕介)